北九州市立則松中学校

【学校ホームページアドレス】
www.kita9.ed.jp/norimatsu-j

ジャガイモ

校長通信　No.２７２

令和５年　８月３１日

「 もし自分の身体が…①～箏曲部連覇達成！～ 」

校長　江　口　　満

7月23日(日)広島県福山市リーデンローズ(ふくやま芸術文化ホール)で行われた第41回全国小・中学生箏曲コンクールの様子

暑い夏が、今、終わろうとしている。 一学期の始業式、「あたりまえ」の休日に感謝しつつ、日頃できなかったことなどに、思いっきりチャレンジする。今年こそ、そんな夏休みにしたい。という話をした。生徒の皆さんは、どのような夏休みだっただろうか。

また、今の私たちには、幸いにも自分の空間がある。しかし、今ある自分の空間は、「あたりまえ」のことではないんだとという話もした。

朝起きて、ご飯を食べる。学校に行く。友達がいる。友達と語り合う。授業を受ける。自分の進路のことを考える。給食を食べる。掃除をする。部活動をする。家に帰る。学校や家庭に自分の空間がある。普段「あたりまえ」と何気なく思っていることこそが、実は、何よりも貴重で、感謝すべきことなんだと。

そしてまた私たちは、コロナ禍を体験した。コロナ禍のあの三年間があったからこそ、今、私たちは「あたりまえ」のありがたさを痛感できると。

しかし今年、6月末から続いた大雨、8月に相次いで発生した台風6号や7号による被害が全国に及びました。生徒会災害復興支援活動「きずなプロジェクト」でご縁のある日田市や朝倉市でも甚大な被害が発生したと聞く。今後、生徒会の皆さんと検討して、10月には生徒代表被災地視察、SDGs講演会、被災地特産品バザー、文化祭での発表につなげていきたいと思う。

【上】創部20年目の集大成として最もふさわしい「二連覇」を成しとげた箏曲部二、三年生の皆さんとご指導いただいた先生方

ところで夏休みに入り、7月23日(日)の早朝、私は、折尾駅から一路、広島県福山市に向かった。

中体連夏季大会やコンクールがあたりまえのように行われた今年、この日ほど自分の身体が二つあったらなと思ったことはない。この日は、第41回全国小・中学生箏曲コンクールと男子バスケット部が出場する市内大会の第1回戦と2回戦が行われるのだ。男子バスケット部は、八幡西区の大会で見事、準優勝に輝いた。悲願の県大会出場をかけた市内大会の様子を、カメラに収めたい。「できるだけ時間のやりくりをして、今年の夏こそ応援に行きます！」と宣言したものの、会場はそれぞれ広島県福山市と北九州市総合体育館に分かれている。時間と空間的に限界がある。(裏面へ)

演奏を終え、成績発表で「金賞」の受賞が決まった歓喜の瞬間と涙の表彰式の様子

大会の数日前、男子バスケット部の顧問H本先生に相談した。H先生は、「まず初日の2回戦が山場。何とか制して、準決勝に進みます！目標は、県大会出場です。」と力強く言ってくださった。二日目の準決勝に進めば、私は朝一から応援に駆け付けることができる。心の底からそう念じた。【次号に続く】

表彰式。拍手を送る箏曲部の皆さん

「二連覇達成」　３年３組　箏曲部部長　Ｋさん

「エントリーナンバー６番」そう言われた瞬間、私はプレッシャーから解放されました。

7月22日から本番の23日まで、私はずっと不安でした。なぜなら二連覇がかかっていたからです。H先生からは、「二連覇とか金賞とかは考えるな。」と言われていました。しかしこの二日間、金賞を取るんだという気持ちでいました。その気持ちが強すぎたせいか、本番前はずっと涙を流していました。すると先生から二回背中をたたいていただき、気持ちを安定させることができました。演奏が終わり緞帳が下りた時、今までの練習の成果が出ていたのか、もう少し練習をしていればもっといい演奏ができたのではないかと少し後悔が残った部分もありました。

結果発表の時、この二日間で私は一番緊張していました。次々とライバル校が賞に選ばれていき、金賞の発表。「エントリーナンバー６番」私たちの番号が言われたとき、私はとても安心しました。　二連覇という大きな目標を達成できたのは、毎日指導してくださったH先生、K先生、バスのTさん、家族、箏を修理してくださった方々など、色々な方々の支えのおかげです。本当にありがとうございました。そして副部長のＩさん、Ｋさん他箏曲部の皆さん、今までありがとうございました。

「貴重な体験と成長」　３年１組　箏曲部副部長　Ｋさん

箏曲部は、7月23日に全国コンクールに出ました。昨年金賞をとったというプレッシャーもあったので、すごく緊張しました。だけど私は、昨年よりも上手に弾けたので嬉しかったです。

練習のときは7月になっても、皆の音が合わなくて、たくさん三年生や部長たちと話し合いました。だけど先生方が練習会場を準備してくださってから緊張感が生まれ、だんだん合うようになっていきました。コンクールが近づいてくと不安でいっぱいになったけど、本番前の練習室で黒岩先生に指導していただき自信がつきました。

三年間の部活で、しんどくて辞めたい日もたくさんあったけど、経験したことがない体験ができて成長もできたので、入ってよかったなと思っています。今まで指導してくださった先生方、ありがとうございました。

「箏曲部で学んだこと」
３年１組　箏曲部副部長　Ｉさん

私は、箏曲部で今まで色んな経験をしてきました。運動部と違ってちゃんと一人一人が全員と同じ気持ちでディテールをしっかり合わせないといけないからまた違う大変さがありました。毎日朝練に行って、自分の苦手なところ、パートで合ってない所を合わせ、本当に細かいところに気をつけて練習をしてきました。私が担当するパートは今までの曲と違い、一パートがそろってでる出だしだったので、毎日毎日パートで何度も合うまで練習しました。ずっと合うことができなくて、コンクール本番で合うのかと練習方法を色々考えて試しました。

やっと合ったのがコンクール数日前で、先生も初めてほめてくださいました。今まで何かがあったときやより良い曲を作るために、三人で話し合いもしました。二度目の金賞を受賞することができ、嬉しい涙でいっぱいでした。所々、残念だったところはあったけれど、全力でみんなで弾けてよかったです。今まで一緒についてきてくれた部員のみんなや、一緒に引っぱってくれた部長、副部長、毎日一生懸命に教えてくださる先生方、運転手のTさんや琴屋の方、そして応援してくれた保護者の方々に感謝を伝えたいです。これからも箏曲部で学んだことを生かして、良い人間になりたいです。

7月9日（日）芸術劇場大ホールにて保護者鑑賞会で演奏する箏曲部三年生